

## 2023\_0921「天空の光る柱（写真）」日々の理科 3332号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

私は約20年間、スウェーデンの鉄道駅舎に設置したカメラを使って、オーロラの遠隔観測を続けています。24時間365日撮影をしていて、5台のカメラで今までに撮影した写真は、実に1億5千万枚以上になりました。そのうちオーロラが写っている写真は数%ですが、それでも軽く数百万枚に達します。そのすべてを点検しているわけではありませんが、先日現地から転送されてきたオーロラの写真は、今までに見たこともないような神秘的なものでした。

紫色に染まった空には北斗七星が架かっています。その下の層積雲や湖面までも、オーロラの光で緑色に染まっています。そして右手（西側）には緑・白・紫の背の高いオーロラ。まるで天を突く光の柱のようです。何か天球に容易ならざる大異変でも発生したような、恐怖さえ感じるような光景です。

オーロラの実体は、高度200km前後のほとんど気体分子の存在しない領域に存在します。従ってどんなに明るいオーロラが観測されても、理論的に「オーロラの音」は聞こえないはずですが、しかし現地の人のお話では、非常に明るいオーロラが出現した時に、「確かに音を聞いた」「その音は、オーロラの明滅に同調して上下した」というのです。もしかしたら、この写真のオーロラからは、本当に「オーロラの声」が聞こえたかも知れません。

(2023年9月中旬／スウェーデン北部・ヨックモック郡・ポルユス)

